

(様式2) 【発表要旨】

＜発表者＞ 指導区名：北薩指導区 氏名：中村 信一

1 発表テーマ

北薩地域における森林づくり推進の取組

2 テーマの趣旨・目的

北薩地域振興局管内の民有林面積は約8万5千ha、スギ・ヒノキの人工林面積は約4万haで、このうち利用可能な7齢級以上が95%を占めている。

管内でも近年主伐面積が増加傾向で推移しているなか、再造林率については令和5年度で60%（県全体59%）となっており、北薩地域未来の森林づくり推進プランに掲げる目標値70%には達していない。

一方で、次世代の利用可能資源を育む間伐実施については、同プラン前期5カ年間の計画量に対して132%（県全体83%）を達成。

森林資源を循環利用しつつ、その公益的機能を持続的に発揮させるために、市町、林業事業体や社会福祉法人等との合意形成を図り、連携しつつ地域の森林づくりに取り組んだ。

3 現状及びこれまでの取組の成果・課題

① 取組

- 北薩地域未来の森林づくり推進会議 ○市町単位の再造林推進会議
- コンテナ苗生産技術研修 ○苗木需給情報交換会
- 林福連携による苗木生産・再造林推進
- ICT, ドローン等を活用したスマート林業研修
- 森林経営プランナー地域実践研修 ○森林作業道管理技術研修
- 再造林推進パトロール（伐採現場巡回）
- 再造林推進のための新聞折り込みチラシの配布

② 課題

- 後継者不足による森林所有者の経営意欲の減退
- 不在村化の進行に伴う森林づくりへの理解不足
- 斡旋業者による山買いや伐採事業者による再造林を計画しない伐採
- 品種が明確で優良な苗木の安定供給体制整備
- 再造林・保育や苗木生産に係る労働力の不足

4 今後取り組むべき内容

① 具体的手法又は検討方向

(1) 森林所有者の意欲喚起と再造林・森林整備の推進体制強化

○市町との連携・支援

(森林経営管理制度や伐採届出制度の運用, 伐採現場パトロール 等)

○リーフレット, 広報誌を活用した森林所有者への働きかけ

(2) 優良苗木の安定供給体制づくり

○品種の明確化と優良苗木の生産拡大・安定

○コンテナ苗生産の技術向上と体制整備

(3) 担い手の確保・育成

○林福連携の定着促進(苗木生産・再造林, 地域振興推進事業)

(4) 造林・保育コストの低減(経営管理の集約化)

○人材の育成(経営プランナー, 作業道オペレーター)

○ICTを用いた「スマート林業」→効率化, 省力化

○再造林及び下刈の省力化(一貫作業, 機械化, 下草繁茂抑制, 早生樹種)

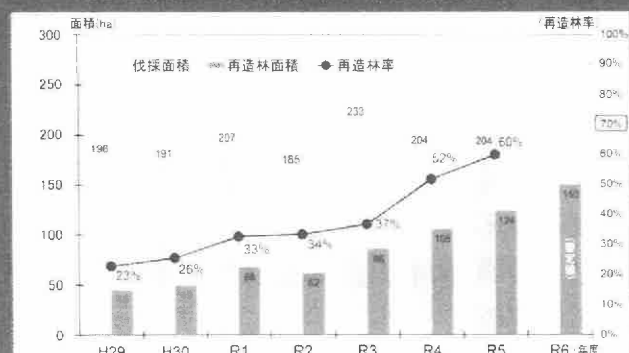
○事業体間連携の促進支援(企業と連携した再造林の推進)

② 期待する成果

地域の素材生産事業者, 造林・下刈り事業者, 苗木生産者, 社会福祉法人等に「持続可能な林業経営」の再考を促し, 関係者が連携して「循環型の森林づくり推進体制」を構築する。

人工林の伐採と再造林の現状(北薩)

- 伐採面積は緩やかな増加傾向で、直近では停滞気味。
- R5再造林面積は H29比で 約2.7倍 に増加、再造林率は 60% に。



間伐実施の現状(北薩)

- 前期プラン(R1~R5)では計画量に対して 132% の実績。(原全体=83%)
- 実施面積は、減少してきている。

